

けん 研 いし 石 よこ 横 あな 穴

平成8年度万葉公園施設整備事業に係る 遺 跡 発 掘 調 査 概 報

調査概要

現地調査期間 平成9年1月30日～2月17日

調査面積 48m² (横穴1基)

委託者 島根県益田土木建築事務所

調査主体 益田市教育委員会

益田市西部には 珍しい横穴

県立万葉公園は市民の憩いの場として親しまれていますが、近年さらに本格的な広域公園としての施設整備が行なわれています。研石横穴はこの県立万葉公園の整備工事中に発見されたもので、古代の有力者を埋葬した墳墓の一種です。横穴は古墳時代後期（6～7世紀頃）に盛んに造られました。一般的に數基ずつまとめて構築される形態をとり、一定期間は追葬が行なわれるなど群集墳に共通する家族墓的性格が認められます。

益田市内ではこれまでにも北長迫横穴群や片山横穴群など数箇所で横穴が見つかっていますが、いずれも群となって存在し市内中部以東に位置するもので西部では発見されていませんでした。

益田市教育委員会では、遺跡の実態を明らかにするために発掘調査が必要と判断し、島根県益田土木建築事務所の委託を受けて平成9年1月から2月にかけて発掘調査を行ないました。本書はこの概要をまとめたものです。

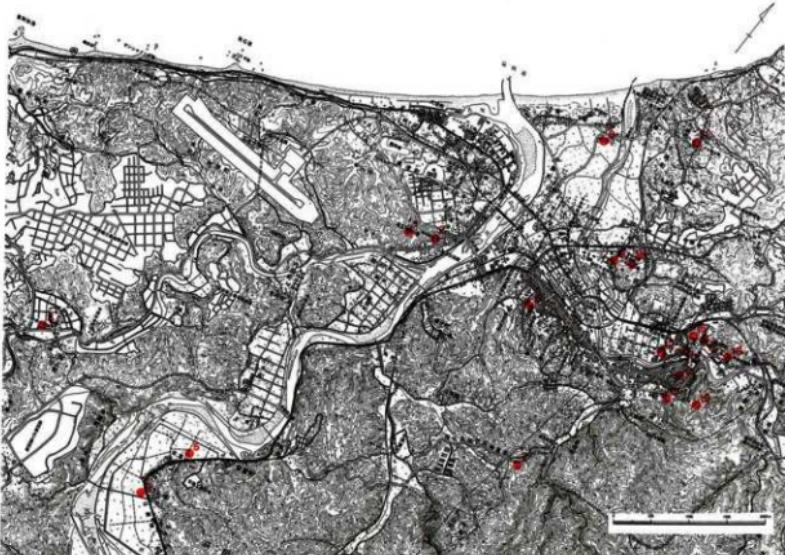


調査区全景

縄文から近代まで……文化財の豊かな益田市

益田市には益田平野をはじめとして、古くから人が住んでいたことを示す多くの遺跡が分布しています。古いものでは安富王子台遺跡のように縄文・弥生時代の遺跡も確認されており、多くの遺物が出土しています。また、小丸山古墳をはじめとする大小多数の古墳が残されていて益田が石見地方の中心的地域であったことを示しています。横穴は今回調査した研石横穴以外に、北長迫横穴群や片山横穴群など、多くは吉田、益田地区に分布しています。中世になると七尾城跡、三宅御土居跡のような益田氏の隆盛に伴う文化財が多くなります。近世以降の遺跡としては幕末の第二次長州戦争で石州口の戦いの舞台となった扇原閻門跡有名です。

これらの遺跡の中でも北長迫横穴群は当地域の代表的な横穴群として学術的に注目されています。石見地方の横穴は益田市や大田市など比較的限定された地域に分布するものであり、今後のさらなる研究が期待されています。



1. 研石横穴 2. 高津柿本神社(本殿:県指定) 3. 白上古墳(市指定) 4. 安富王子台遺跡 5. 羽場遺跡 6. 北長迫横穴群
7. 扇原閻門跡(市指定) 8. 福王寺石造十三重塔(市指定) 9. 中世今市船着場跡(市指定) 10. 小丸山古墳(前方後円墳52m:市指定) 11. スクモ塚古墳(前方後円墳?100m?:国指定) 12. 三宅御土居跡(県指定) 13. 妙義寺(境内地は七尾城跡の附指定) 14. 晓音寺鍵曲り 15. 万福寺(本堂、庭園:国指定) 16. 片山横穴群 17. 染羽天石勝神社(本殿:国指定) 18. 医光寺(庭園:国指定 総門:県指定) 19. 七尾城跡(県指定)

遺跡の位置と周辺の文化財

確認された遺構

横穴は崖面や山腹などの丘陵地の斜面を利用して構築されるもので、古墳時代中期後半以降に出現した横穴式石室に準じた構造をしています。したがってその構造は遺体を安置する玄室と、玄室に通じる羨門、羨道からなります。

遺体を玄室に安置すると羨門の部分から玄室は塞がれますが、その後同じ横穴にさらに別の遺体を埋葬する（追葬といいます）ことがあります。このため、ひとつの横穴に複数の人が葬られている場合も少なくありません。

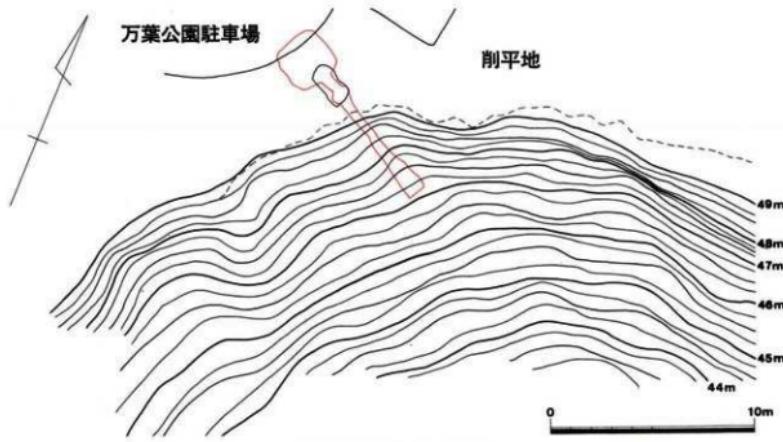
研石横穴の玄室は長さ2.4m、幅2.48mの規模を持ち、羨道は長さ0.6mと短く、幅は0.5mで玄室の入口には羨門の閉塞に関係するとと思われる石が埋め込まれていました。玄室から遺体を確認することはできませんでしたが、遺構の様子や出土した遺物から追葬はされなかったようです。



玄室開口部（調査前）



玄室正面



周辺地形測量図

副葬品は……

横穴の構造や埋葬の方法はそれまでの大きな古墳とはかなり異なったものでした。副葬品はどうだったのでしょうか。横穴の副葬品は土師器、須恵器、玉類や刀が主要なもので、横穴が大規模な古墳に比べて質素なもので大きな権力を持つ人物の墓ではなく、小集団の首長の墓として築かれたものであることを示しています。

研石横穴で確認した遺物はすべて玄室から出土しました。出土したのは長さ



遺物の出土状況

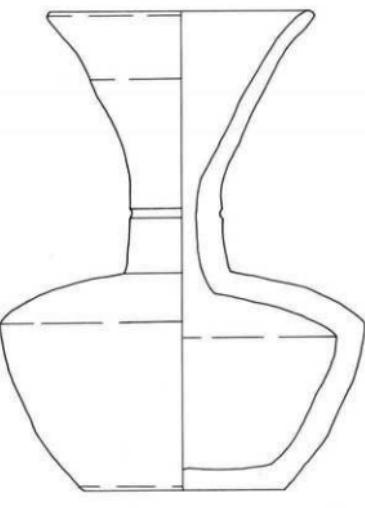
3～4cmを測る金属片（釘状の小片）4点と須恵器が2点です。金属片は木棺を接合していた釘と思われます。

須恵器は玄室内南西部隅から壺（食物等を盛りつける器）と長頸壺がそれぞれ1点確認されました。時期はだいたい7世紀後半から8世紀頃のものと思われ、長頸壺は口縁の一部が欠けていたものの、ほぼ完全な形で出土しました。外反する口縁は口径12.3cmで、器高は23.2cmを測るもので頸部には太い沈線が見られます。

壺は口径8.1cm器高5.1cmを測る比較的小さなもので、壺と同じ場所から出土しました。

研石横穴には後世の盗掘をうけた形跡は認められませんでした。にもかかわらず副葬品は質量共にかなり少ない事は特徴の一つと言えるでしょう。

今回発掘調査を行なった横穴の近くのサガリ遺跡では弥生時代の住居跡等が発見されていて、古くから人間が生活していた事がわかつ



出土した須恵器（長頸壺）

ていましたが、今まで横穴が確認されていなかった場所でした。周囲の地形から横穴が群として存在する可能性も考えられます。これまでに横穴の発見例がなかった市内西部での発掘調査であり、益田市の古代史解明に貴重な資料を提供してくれたといえます。

平成9年(1997)3月

益田市教育委員会